

『子どもを帯同しての海外赴任』 —留意事項—



脇田 孝豪

1. 子どもを帯同して、いざ！海外へ

☆大きな期待感！(^.^)!

- ・国際感覚を！
- ・バイリンガルに！

★大きな不安感(～_～;)

- ・現地での生活は？
- ・現地の学校事情は？
- ・帰国後はどうなるか？⇒どうするか？

2. 教育相談の多い事例は？

- A. 赴任時・・・日本人学校かインター校か？
- B. 赴任期間中・・・どのタイミングで帰国受験？
- C. 帰任時・・・①日本人学校から帰国編入。
②英米現地校やインター校から帰国編入。
(特に、高校への新入学・編入学時！)

⇒結局、難儀な案件のすべてに絡むのが・・・
学校教育システム (特に高校教育) の違い！

3. 子どもは2度の困難に直面！！

(日本の学校教育vs.海外の学校教育)

A. 学習内容

- ・日本では、体系だった教科・科目(「学習指導要領」)、
⇒「教科書」(日本語)の読解力が基礎学力の土台！

B. 授業スタイル

- ・英米の現地校やインター校では、英語活用能力が必須！
⇒英語能力支援(ELL)あっても、最低2～3年は必要。

C. 先生や友だち

- ・国内と現地とで、2倍・3倍の友だちができる！
- ・帰国後や卒業後も、友だちのネットワークが世界中に！

D. 圧倒的に乏しい「日本語環境」！！

⇒「日本語母語」を意識的に確立する努力が必須！！

4. 「エピソード」で具体的にイメージ！

●エピソード①

- ・小5 (長男) と小3 (長女) の子どもを帯同 (7年間)
- ・バンコク (タイ) でインター校、高2・大1年齢で帰国

○エピソード②

- ・ある小学生の作文 (感想文コンクールから)
- ・北米の<現地校＋補習授業校>に通学

●エピソード③

- ・小学校6年～中学校 (USA現地校) のケース
- ・帰国生枠で高校受験、高校3年で学級担任

帰国子女の言語適応をよりよく
支援するために
～母語の土台をしっかりつくる～

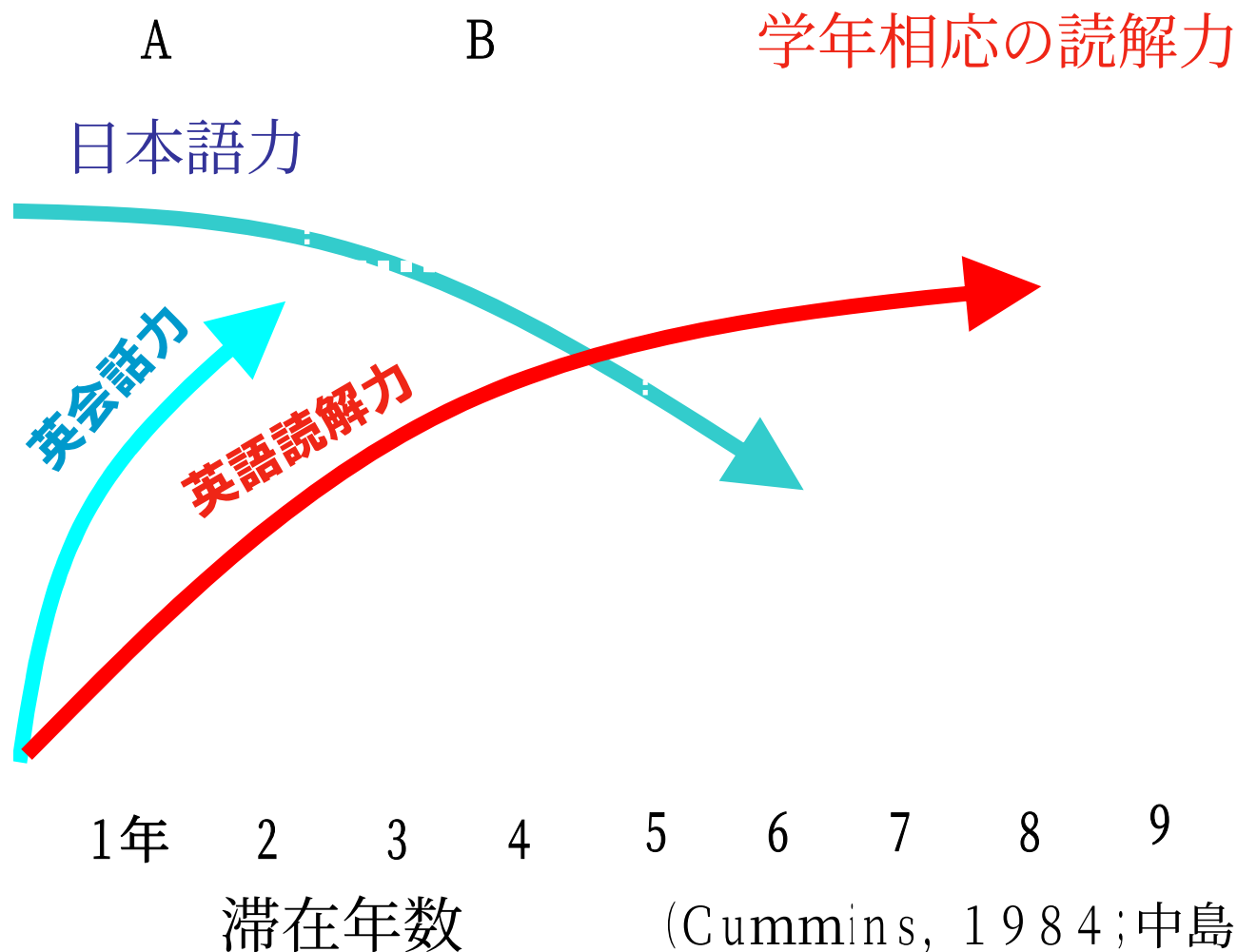
内田 伸子

(お茶の水女子大学名誉教授・
十文字学園女子大学特任教授)

滞在年数と2言語の力の推移

★「英語読解力」を見落としていた！

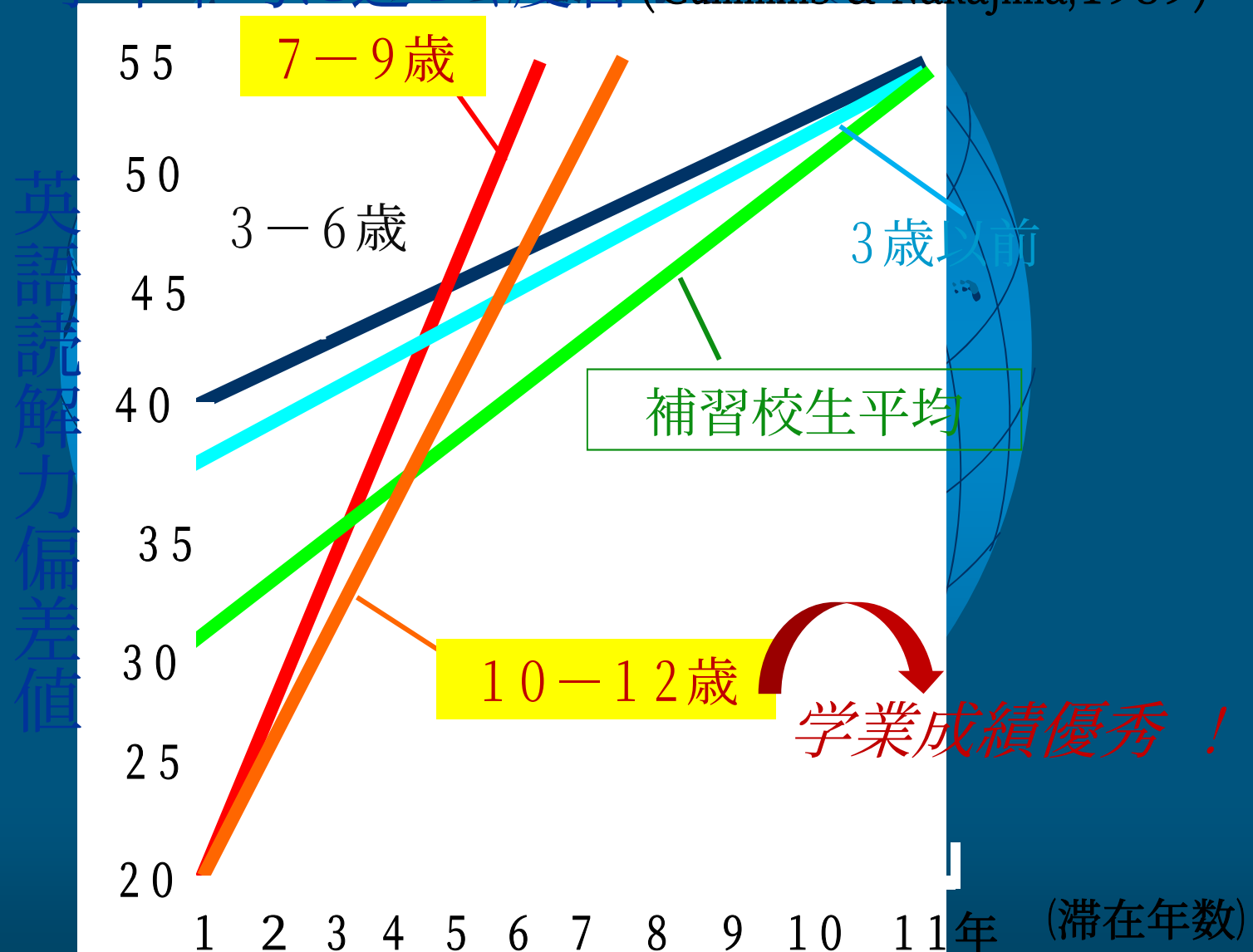
語学力



学校文化の影響

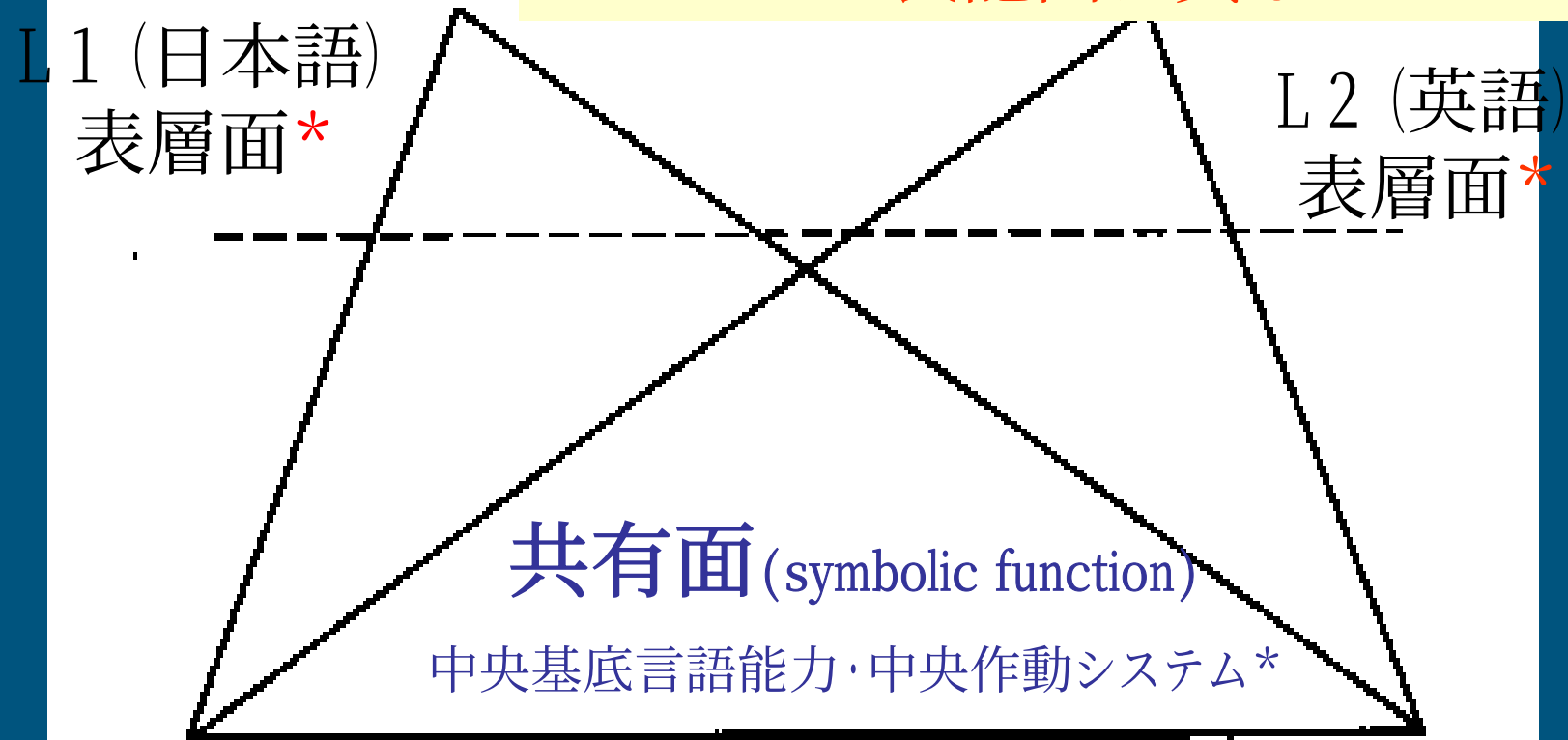
入国年齢と英語読解力偏差値 (と学業成績)

学年平均に近づく度合 (Cummins & Nakajima, 1989)



カミンズの「2言語共有説」(「冰山説」)

＊ L1とL2; 音声構造, 文法構造,
表記面は異なる.



＊論理的に分析し,類推・比較し,まとめるといった抽象的思考力.
＋文章構造や文章の流れをつかむメタ言語能力は深層で共通
(Cummins,1984:p.143に基づき作成)

5. 日本人学校

(1). 教育内容は日本の小・中学校と同じ

- ・「学習指導要領」に準拠⇒国内と同じ「教科書」使用
- ・国派遣教員が指導 (国内現役の小中学校教員)
- ・年度は4月～翌年3月

(2). 子ども帯同の駐在員の多い51ヶ国89校のみ

(内、幼稚部併設13校、高等部は上海のみ)

(3). 国内との違い

- ・「英会話」、「その国の言語」、国際交流等

(4). 義務教育課程 (小中学校) が中心

- ・幼稚部があるところもある。
- ・高等部 (高校) があるのは、上海日本人学校のみ！

6. 英米の現地校、インター校

(1). 英語による授業 (英米系)

(2). 日本の「学習指導要領」と異なる教育課程での勉強

…でも、義務教育課程での帰国編入学は学齢相当の学年編入となる規定あり、
しかし、国内高校への入学 (編入学) は一筋縄ではいかない…

(3). 帰任時、国内高校への入学 (編入学) 資格は？

＝国内の小・中学校9年間の教育課程の修了 (日本人学校は可！)。

⇒または、海外学校での相当する教育課程を修了していること。

(米国系ではGrade9-th、英国系ではYear10-thだが、約半年のズレ！)

(4). 帰国編入学は、「帰国生受入れ校」になりがち！

・日本の教育課程の修得不十分な箇所をサポートする学校体制。

・せっかくの英語活用能力を保持・育成する学校体制。

(5). 可能な限り、補習授業校等とのダブルスクールを！

…同時に、海外子女教育振興財団の「通信教育」がお奨め！

7. 「日本語母語」確立のために

しゃべる・きく (音声) ・・ 日常の「生活言語」

↓ 「絵本の読み聞かせ」で、生活言語から学習言語にアクセス！

文字_(かな・カナ・漢字)を使って「意味_(概念)」把握・・「学習言語」

↓ 「10歳の壁」(小3⇒小4で、『学習指導要領』が急に高度化)

日本の教育課程は「教科書」(文章日本語)の体系！！

↓ ⇒逆に、文章日本語の読解力があれば、独習も可能では？！

☆「七・五・三」の現状_(小・中・高「教育課程」の修得状況←私の実感)

・・非常に系統だった「教育課程」(小・中・高の全教科・科目の内容と順序)の反面、
途中の修得が不十分だと、「積み上げ」が効きにくい(やり直しにくい)学校教育システム！

8. 補習校・補習授業校

(1). 日本語能力 (母語) の習得

(2). 日本の教育課程の最低限の修得

⇒特に、**国語と算数 (数学)** の修得が必須！

(3). 世界55ヶ国201校 (欧米に多い)

- ・主に小中学生を対象にして、日本語で指導。
- ・多くが週1回 (土曜)、日本からの派遣教員も。

9. 日本語「母語」の特質は？！

(1). 「母語」の字義・・・「ある人が幼児期に周囲の大人たち (特に母親) が話すのを聞いて最初に自然に身につけた言語。」(Weblio辞書から)

(2). 「母語」のより深い意味を考えると・・・

・・・人間は視覚・聴覚・触覚・味覚、等々の五感からの情報を次第に、「ことば」を用いて、感じ、考え、伝えるようになる。その基本となる「言語」のこと。

(3). 「母語」は、音声言語を意味するようだが・・・

・・・実際には、音声言語だけではなく、文字言語 (学習言語)を用いて、読書を通じて、より深く高度な思考や感覚を享受したり、表現したりできるようになる。

(4). 日本語「母語」は、この文字言語が特に難しい。

・・・そして、この難しい文字言語は、日本の学校教育 (「学習指導要領」に基づく教育課程) の中で修得することになっている。

☆日本語「母語」は、音声言語と文字言語がワンセットと考えるべき！

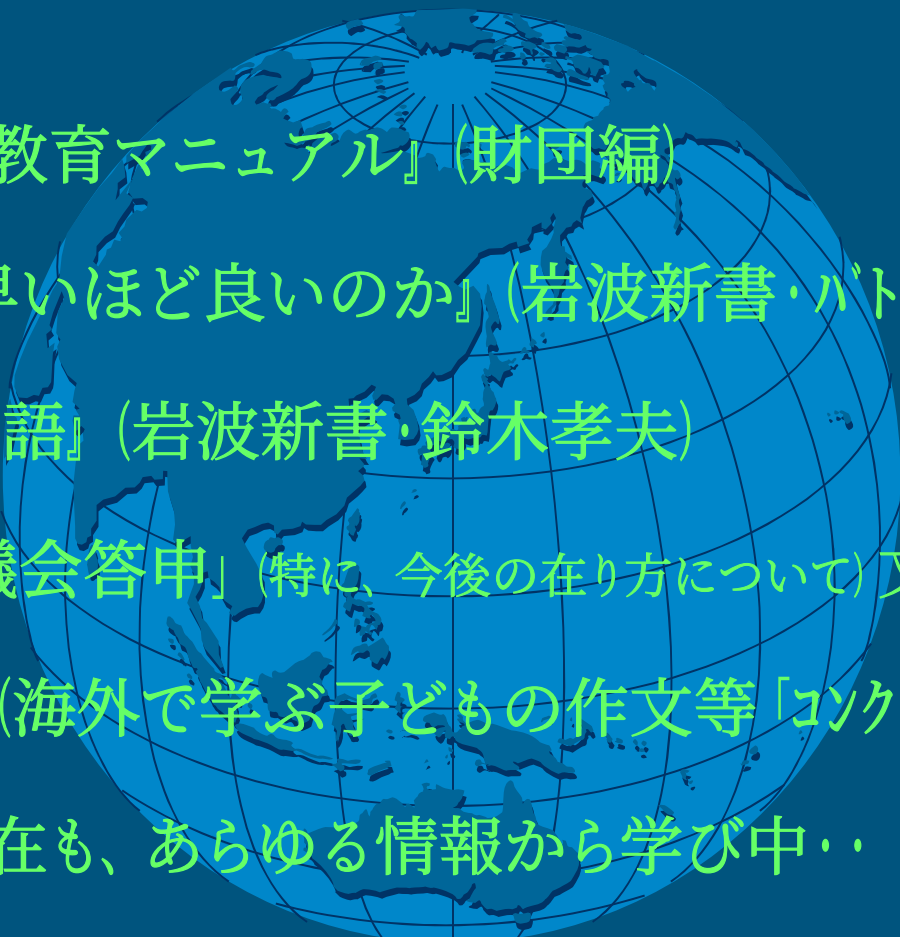
10. 「現地校やインター校から帰国時の留意点」

(★日本の学校教育には、義務教育と高校教育との間に大きな段差アリ！)

- (1). 学齢期 (小中学校) であれば、年齢相当の学年に編入学できるが…
- (2). 日本の高校入学 (編入学) では、「高校入学資格」が問われる。
＝小・中学校9年間の教育課程 (またはそれに相当する課程) を修了が要件。
 - ①日本人学校や国内中学校に編入学⇒中学卒業資格。
 - ②現地校やIS校9年間の課程を修了後⇒国内高校1年に新入学か編入学。
＜しかし、高校2年3学期以降の編入学は極めて困難！！＞
- (3). 日本の「大学入学資格」
＝小・中・高12年間の教育課程 (またはそれに相当する課程) を修了が要件。
＜途中帰任時の国内高校編入学は、高2の2学期当初が最終リミット！！＞
 - ①現地校やIS校の12年間の課程を修了後
⇒国内大学に「帰国生枠」受験を活用して新入学できる！

ただし、上記の「6ヶ月間のズレ」等について柔軟対応のある私学が増加中！！

11. 参考文献、等

- 
- A. 『新・海外子女教育マニュアル』(財団編)
 - B. 『英語学習は早いほど良いのか』(岩波新書・バトラー後藤裕子)
 - C. 『日本語と外国語』(岩波新書・鈴木孝夫)
 - D. 「中央教育審議会答申」(特に、今後の在り方について) 文科省HPから
 - E. 『地球に学ぶ』(海外で学ぶ子どもの作文等「コンクール応募作品」)
 - F. そして、いま現在も、あらゆる情報から学び中…

ありがとうございました。

番外① 改めて「日本語母語」 確立のために！

「乳幼児期の母語指導」(暖かい家族関係＋対話＋読み聞かせ)

- ① 文字を覚える以前の絵本 (本) の読み聞かせ
- ② 乳幼児が親の膝に抱かれて語りかけられること
- ③ 読み聞かせは、「好きなときに好きなだけ」！
- ④ 日本語による言語の世界の豊かさを体験
- ⑤ 絵本選びのポイントは？ (⇒「推薦図書」参照)

・ 絵が美しさ、文章の確かさ、物語として優れていること

番外② 改めて「日本語母語」 確立のために！

(学齡期の日本語能力の育成について)

- (1). 良好な日本語環境で、「文字」への興味・関心 (就学前)。
- (2). 「ことば」(音声)と「文字」との対応を会得 (小1・小2)。
- (3). 「漢字」を《文字・発音・意味》のセットで会得 (小1～小3)。
- (4). 「漢字」を使っての抽象的な概念を会得 (小4～小6)。
 - ・「10歳の壁」、やさしい「漢和辞典」に馴染み始めては？
- (5). 「熟語」(漢字の組合せ)で、意味や概念を会得 (中学校)。
 - ・「漢和辞典」を多用して、言葉による想像力を豊かに。
～より体系だった教科学習 (国・数・理・社・英) が始まる。
 - ・「中学校の壁」＝高校教育の土台は中学校教育！！
- (6). よい文章を精読して「文章」表現の豊かさと厳密さを会得。
 - ・詳しい「国語中辞典」を使い始めては (中学校・高校)。